

情報・電子イノベータ列伝

大学研究室から立ち上がった10人

編者はしがき

イノベータは革新者であり、元々の言葉は広い分野に適用されている。この本においては、電子・情報分野に於けるイノベータをとり上げている。さらにその選択においては『新規事業創出につながっているかどうか』を重視している。このようなイノベータによつてもたらされた知識・情報が富と豊かさ・幸福の形成の主役となつていると考えている。

企業に於ける革新者としてはアントレプレナーと云う言葉がある。武田財団としてはそのアントレプレナーシップに富む工学知の創造に注目しており、アントレプレナー列伝という本の出版を企画した。しかし、大学の先生などの場合、アントレプレナーの狭義の意味である企業家には当てはまらないという意見もあるので、本書ではより正確にイノベータという書名とした。すなわち、主として大学などに在籍して新しいアイデアを提案し、自分自身も研究によつて確認した後、そのアイデアを外部の企業において実用化して生活者に大きい効果を与えた方々である。

一例として、最初の坂村健教授の場合について述べると、東京大学助手の時代にどこでもコンピュータを実現する為には、人間とコンピュータとの付き合い方のルール、OSがリアルタイムで動くことが必要である事から、この為の使い易いリアルタイム OS である TRON を提案した。

TRON は国内各社の賛同者を得て普及を始め、通産省と文部省(各々当時)の支援で全国の小中学校に導入するパソコンに TRON を使う計画が進められた。所がこの計画は日本の主要分野における進出に危機感を覚えた米国が貿易障壁として TRON を名指してスーパー 301 条対象候補にあげられる事となつた。これをきっかけにして TRON の積極的普及は逆風を受ける様になつた。しかし、リアルタイム OS としての TRON の使い易さはこんなことで消されることなく、静かに多くの分野で実用化されていった。たとえばトヨタ自動車のエンジン制御、NTT ドコモを始めとする殆どの携帯電話に使われる様になつてきた。

坂村教授は現在この様な TRON の発展を援助すると共に最初に考えたどこでもコンピュータ、今の言葉で ユビキタスの時代のリーダとして活躍中であり、坂村教授は大学にいながら大きい影響を企業に与え、ひいては生活者の富と豊かさに寄与したイノベータの好い例である。

武田計測先端知財団 常任理事
垂井 康夫

